

膵がん治療における血糖コントロールと糖尿病治療薬の抗腫瘍効果への影響

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

糖尿病は膵がんのリスクを高めることが知られていますが、逆に膵がんやその治療の影響によって血糖値が高くなる場合もあります。膵がんの標準的な治療の一つであるゲムシタビン(GEM)+アルブミン懸濁型パクリタキセル(nab-PTX)療法があります。動物実験では、この治療が高血糖の状態では効きにくい可能性が報告されています。しかしながら、ヒトにおいては高血糖状態が抗がん剤の治療効果に及ぼす影響について検討した報告は限られています。この研究では、GEM+nab-PTX療法施行中の血糖コントロール及び糖尿病治療薬が治療効果に及ぼす影響を調査することを目的としています。

診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2015年1月～2022年12月に当院で進行・再発膵がんに対してGEM+nab-PTX療法が導入された方

使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、糖尿病既往歴、治療歴(がん薬物療法、手術)、血液検査(A1b、CRP、血算、血液像、Cre、eGFR、AST、ALT、T-bil、随時血糖、HbA1c、グリコアルブミン)、抗がん剤投与量(GEM、nab-PTX)、糖尿病薬使用状況(インスリン、経口薬)

使用開始予定日：2025年12月9日

研究予定期間

2025年12月9日～2028年3月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 薬剤部 守田和憲

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さん治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先	済生会熊本病院 薬剤部 守田 和憲 住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)
--------	--